

2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会に向けた文化を通じた  
機運醸成策に関する関係府省庁等連絡・連携会議（第2回）

議事概要

1. 日時：平成28年3月2日（水） 9：30～10：55
2. 場所：合同庁舎8号館8階 特別大会議室
3. 出席者：
  - 平田 竹男 内閣官房東京オリンピック競技大会・東京パラリンピック競技大会  
推進本部事務局長
  - 横尾 英博 内閣官房知的財産戦略推進事務局長
  - 青柳 正規 文化庁長官
  - 松永 明 内閣官房内閣審議官（内閣官房副長官補付）
  - 原田 淳志 総務省地域力創造審議官
  - 吉田 真人 総務省情報流通行政局審議官
  - 下川 眞樹太 外務省国際文化交流審議官
  - 柴崎 澄哉 国税庁長官官房審議官
  - 藤井 康弘 厚生労働省社会・援護局障害保健福祉部長
  - 大角 亨 農林水産省大臣官房審議官（兼食料産業局）
  - 安藤 久佳 経済産業省商務情報政策局長
  - 古澤 ゆり 観光庁審議官
  - 桃原 慎一郎 東京都生活文化局次長
  - 鈴木 一幸 東京都オリンピック・パラリンピック準備局計画調整担当部長
  - 土淵 裕 東京都産業労働局次長
  - 布村 幸彦 公益財団法人東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会  
副事務総長

（オブザーバー）

  - 塩野 徹 全国知事会 調査第二部部長
  - 荒木 慶司 全国市長会事務総長
  - 石田 直裕 全国町村会事務総長
  - 安藤 裕康 独立行政法人国際交流基金理事長
  - 池原 充洋 独立行政法人国立文化財機構 理事
  - 山下 和茂 独立行政法人国立美術館 理事・本部事務局長
  - 大和田 文雄 独立行政法人日本芸術文化振興会 理事
  - 小糸 正樹 株式会社海外需要開拓支援機構 専務執行役員
  - 前田 茂樹 独立行政法人日本貿易振興機構理事
  - 吉田 晶子 独立行政法人国際観光振興機構理事

（事務局）

  - 高原 剛 内閣官房東京オリンピック競技大会・東京パラリンピック競技大会  
推進本部事務局企画・推進統括官

芦立 訓 内閣官房東京オリンピック競技大会・東京パラリンピック競技大会  
推進本部事務局総括調整統括官

清水 幹治 内閣官房東京オリンピック競技大会・東京パラリンピック競  
技大会推進本部事務局参事官

※下線は代理出席

#### 4. 議事要旨

##### <平田事務局長挨拶>

##### 【平田事務局長】

2020年は文化を発信する最高の機会である。今年ハリオから東京へという年になり、準備を加速させていく必要がある。第一回会議を開催した昨年11月から、関係者の皆さんと幾度も調整をさせていただき、今日、政府の取組について成案をもって議論いただきたく、お集まりいただいた。2020年を見据えた文化の振興について、日本政府全体で、関係省庁が一致団結し、統一感をもって文化を振興していくことが必要だと思っている。

今回、東京都とも摺り合わせをさせていただいた結果、政府と東京都が一緒になって、2020年以降を見据えた文化プログラムを進めていくことで調整が整った。政府の中でも文化庁や知財事務局と連携すること、さらに、全国の都道府県の皆様とも一緒にやることが必要である。文化のジャンルとしても、伝統的な文化芸術、クールジャパン、祭り、温泉、和食、日本酒等、地域性豊かで多様性に富んだあらゆるものについて、進めていく。

こういう形で進めていく文化プログラムを、「beyond2020プログラム」として、2020年以降も続いていく文化プログラムとして設定し、今日、これから皆さんとの議論を踏まえてマークを作成し、新年度のしかるべき時期に、ロゴマークをもって、日本政府・東京都・関係団体の皆様と一体になり、文化プログラムを進めていきたい。

今日の議論の一番大きなテーマはこの「beyond2020プログラム」だが、ハリオから東京へ世界の注目が移る年に、政府を挙げて、文化の振興を進めていきたいと思っている。関係省庁・関係機関・東京都の皆様の一層の協力・連携をお願いしたい。

##### <政府と東京都が進める2020年以降を見据えた文化プログラムの推進について>

- ・事務局から、資料1-1により「政府と東京都が進める2020以降を見据えた文化プログラムの推進について」説明し、了承。
- ・事務局から、資料1-2により「オリパラ基本方針推進調査」を説明し、了承。

## <資料 1-1、資料 1-2 について意見交換>

### 【組織委員会】

・資料 1-1 「beyond2020 プログラム」について。2020 年あるいは、2020 年以降のレガシーを見据えて、文化をはじめとして、様々な分野において、オールジャパンで、全国で盛り上げていただくことは重要な課題であり、組織委員会としても国と東京都が一体となって機運醸成を図っていただくことは、非常にありがたいと思っている。

その中で「beyond2020 プログラム」を国と東京都が一体となって進めていただくことについて、オリンピックのルールについては、随分ご配慮いただいているが、一点だけご留意いただければと思い申し上げます。

国と東京都におかれましては、開催にあたり、オリンピック憲章の遵守、オリンピック・パラリンピックの知的財産とパートナー、スポンサーシップの権利の保護をお約束いただいているということから、このプログラムの実施に際しては、2020 大会は一つの契機として、捉えていただくものの、この資料で参考に取り上げているロンドン大会におけるイギリスのグレートキャンペーンが、2012 年の大会後のキャンペーンでありましたように、2020 年以降を見据えた、東京 2020 大会とは直接関係しないということを整理の上、プログラムを推進いただけるとありがたい。そこを留意点として、ご配慮いただきたい。知的財産保護の観点から留意点を申し上げたが、2020 年およびそのあとのレガシーの形成に向けては、ぜひ国、東京都、その他関係の皆様と大会以後もレガシーがつながるように協力して、取り組んでいきたいと思っているので、全体としての留意をお願いしたい。

### 【平田事務局長】

・この資料 1-1 は副座長である文化庁・クールジャパンと東京都の 4 者連名だが、この会議におられる関係者全員が連名になるイメージだと私は思っている。自分の省庁、機関の名前が入っていないから関係ないという考えではなく、ぜひ、一緒になってやっていきたい。

新年度予算の展開に関しては、我々内閣官房は調査費しか持てないので、大事になってくるのは各省の事業予算である。各省の予算獲得については、我々も一緒に汗をかいてやっていきたい。

改めてになるが、署名に入っていない省庁・機関は関係ないということではなく、一緒になって進めていきたい。昨日ぎりぎりまで調整をして、ここにたどり着いている。開催都市の東京都と政府と組織委員会と関係当事者が合意をしている。ぜひ、一緒に進めていきたい。

### 【知財事務局長】

・今、平田事務局長から話があった署名に関連して申し上げますと、本来であれば連絡・連携会議の申し合わせの格好の方がよいだろう。というのは、資料内に参考で出している、ジャパンマークについては、クールジャパン関係府省庁連絡・連携会議申し合わせという形での運営になっている。組織委員会も当会議内にいらっしゃるので、その配慮もあり、

資料はこの4者の署名になっている。「beyond2020プログラム」については、事実上この会議体での申し合わせ事項として、政府全体で進めていくべきであろうと考えている。今後、ロゴマークの運用については、既にジャパンマークで関係省庁と作ったガイドラインがあるので、それを参考にしながら、政府全体で取り組める方針を作っていくことが大事であろう。

#### <文化を通じた機運醸成に資する施策について>

- ・関係構成員より、資料2-1から資料2-12により「文化を通じた機運醸成に資する施策について」を報告。

#### <アクション&レガシープラン2016中間報告について>

- ・組織委員会より資料3「アクション&レガシープラン2016中間報告」を報告。

#### <文化を通じた機運醸成策に関する意見交換>

##### 【全国市長会】

- ・各省庁の取組内容を聞いて、外国の訪日客に日本の文化に触れてもらうという点で、文化庁あるいは観光庁にしっかり取り組んでいただきたい点が、日本の伝統文化であり、総合舞台芸術である能・歌舞伎に触れてもらうことである。先日も、昨年ギリシャの古代円形劇場で能が上演された様子がNHKでも放映されていた。経済混乱のギリシャでも満席になったということで、外国人の方が高い入場料を払って見に来るほどに人気がある。歌舞伎は海外で演じれば、常に満席であり、また先日、歌舞伎座の前を通ったところ、外国の方が多く並んでいた。チケット売り場の方に聞くと、歌舞伎に関心のある若い外国人が外国ではチケットが取れないので、見てみたいという方が多いようである。能でも歌舞伎でも外国の方は衣装を見るだけでも感動するので、クールジャパンも良いが、能や歌舞伎をプロの職業としてやっている方も苦勞をしているようなので、

「beyond2020プログラム」で日本の数百年の伝統を日本のレガシーとして、訪日外国人が増えるこのタイミングで、もう一度光を当てたい。特に地方都市でも薪能は盛んにやっているし、農村歌舞伎も今でも、素人の人が大賑わいでやっている。

海外から来た人は歌舞伎を見るといってもどこでチケットを買えばよいかわからないし、そのあたりについては親切な対応が必要である。外国人の中には、歌舞伎を見る気になれば、地方に行ってまでも観劇するかもしれないので、地方創生の観点からも、全国各地にいろんな取組が現にあるので、ぜひお願いしたい。

またこれは財政的な問題であるが、我が国は、総合舞台芸術である能や歌舞伎があるが、国立の演劇場は能楽堂が一つだけで、そのあたりについても、もっと力を入れてもよいのではと感じている。

地方では財政困難な中、能舞台を作ったり、地道に取り組んでいるところもあるの

で、国としてももっとやられてもいいのではないか。

### 【文化庁】

先日、ギリシャで行われた公演についてですが、梅若玄祥さんという能では圧倒的に力を持っている素晴らしい方がギリシャで大変有名な演出家と組んで、紀元前 4 世紀につくられたエピダウロスという最高のギリシャ劇場の遺跡の中で去年、公演を行った。私自身は、実際に見にいけなかったのが、先日玄祥さんにお越しいただき、どのような予算で実施したのか、公演を実施するため必要なこと等色々とお話をお伺いした。物語の中で、オデュッセウスが冥界に降りていくという場面を、わざわざ日本人に新しくシナリオを描いてもらい、それを演じたということで、能でもギリシャ演劇でも死や冥界というものが非常に大きな役割を持っており、そのことを明確にとらえていたので、ギリシャ人にも関心を持ってもらえたということである。本件は、今回の文化プログラムの一つの重要なモデルになるのではないかと、梅若さんの興行全体のプロセスから資金まで全部を教えてください。

また、今日の新聞で拝見したが、どこの流派かは不明だが、British Council の協力も得て、能を英語でやる取組を始めたということで、これは実現できると思う。能は地方にしっかり根付いているので、それを掘り起こして、様々な流派の方にもご協力いただいて、より見える度を高めた形で行いたい。

最後に劇場に関しては、国立劇場は建て替えだけで 400 億かかるので、2020 年前までにはとても建て替えできないため、部分改修をする。オリンピック後に、本格的に建て替えを検討している。そういう意味では現有物をいかに使えるようにしていくかということで、対応していきたい。

### 【日本芸術文化振興会】

国立劇場においては、6-7 月に歌舞伎鑑賞教室というこれまで 550 万人以上の高校生あるいは小中学生を対象にした歌舞伎鑑賞教室をやってきており、そのうちの 1 回を昨年 6 月に第 1 回 DiscoverKABUKI というタイトルで外国人向けに実施した。実際 2020 年に我々がどのように大勢いらっしやった外国人に歌舞伎をはじめ、伝統芸能を見せるかということで、去年から始めたプログラムである。今年は、さらに文楽・能に関しても、DiscoverBUNRAKU・DiscoverNOU ということで、数は一気に増やせないが、そういうノウハウを培った上で 2020 年まで続け、それ以降に外国人に向けた公演や施策を検討している。

## ＜平田事務局長より総括＞

### 【平田事務局長】

本日はありがとうございました。組織委員会、東京都、関係省庁と調整をしっかりと進めながら、アーティストから見ても、国民から見てもわかりやすい文化プログラムを目指したい。大会招致の段階では、地方の商店街の方々も応援してくれた。そういう方々が一緒になって何かやりたいというときに、今までは、マーク等いろんなことを、一緒に気持ちを共有できない悩みがあったが、本日の会議では、地方と一体感をもった文化プログラムを推進していけるということを確認できた。国としても仕事が残っていて、国宝や重要文化財を、2020年に向け世界に大々的にお示しできるかどうかを検討していきたい。また、東京都からも話があったが、日本人が日本の文化をあまり知らないことも大変問題であり、教育制度の中で、どのように教えていくことができるのかも含め、形だけでなく深みのある文化の振興を図っていきたい。皆さんと連携をしながらやっていきたいので、引き続きご協力をお願いしたい。

・ 閉会